

緒言

摂関院政期、すなわち平安時代後期から鎌倉時代初期の思想史については、明治から今日に至るまで汗牛充棟もただならぬ研究が積み重ねられてきた。それはこの時期が民衆のための、そして日本独自の思想が発達した、日本の思想史における極めて重要な時期の一つだとされてきたためである。

如何に時代区分するかにもよるが、この摂関院政期の主たる思想家を挙げるとすれば、通例として仏僧ばかりとなり貴族の名は殆んど挙がらない。そこで仏教史を思想史へと拡大すべく、貴族とも深い交渉があり時代に大きな影響を及ぼした仏僧として、法然房源空に着目することになる。源空を中心とすれば、慧心僧都源信は先駆者、明庵栄西と希玄道元は同じく易行を重んじた仏僧、慈円と解脱房貞慶、明慧房高弁、日蓮は批判者、親鸞は継承者とするとともに、帰依者として九条兼実に触れ、源空が配流に処された事件によって朝廷政治にも論及することが出来る。

そして通説では、摂関院政期の思想史は次の如く叙述される。永承七年（1052）の前後から末法思想が流行し、人々は末法の到来に恐怖した。これは当時、仏教史観が絶大な權威を有していたことを意味し、また末法への恐怖が人々をより深く仏法に依存させた。九条兼実などの貴族は政治への意欲を失い、仏法に逃避した。ただしその仏法とは貴族の、または貴族が民衆を支配するためのものだったので、民衆は自分たちのための仏法を希求するようになった。このような民衆の願望を背景として、源空は民衆のための仏教を布教した。源空による民

衆仏教の隆盛を危惧した南都北嶺と朝廷は、結託して源空とその弟子たちを流罪死罪に処した。斯くしてこの時期の思想史は、民衆仏教を中心に展開した、と。

今日、斯くも陳腐な思想史叙述を好んで用いる研究者は多くないであろうが、それは必ずしも通説が打破されたということの意味しない。民衆仏教を強調した思想史叙述に不満のある研究者も、民衆仏教とそれ以外の思想の対立という叙述そのものが不当だ、とは見ないことも少なくないためである。しかし筆者の所見によれば、この対立図式は結論のみが先行しており、未だ実証されていない。

また周知のように、摂関院政期においては時世が衰退しつつあるとの歴史意識が広く行われ、抜き難いものとなっていた。当時の貴賤道俗が「末代」「末世」などについて深く危惧していたことは、数多くの史料から明らかである。しかし、これらは根拠なく「末法」と混同され、末法思想の表明だとされてきた。従来混同されがちであった「末代」「末世」などと「末法」の異同を考証し、仏教の歴史思想が摂関院政期を蓋い尽くしたという通念にも修正を迫る必要がある。

本書は従来の民衆仏教史観などから脱却し、摂関院政期思想史の実像を描き出すことを目的としたものである。そのため第一に、通説の重要な立脚点とされてきた、余りに有名ですでに論じ尽くされた感すらある人物や現象を改めて取り上げること。第二に、特定の個別分野史に限定せず、宗教や政治、歴史などの思想全般を対象とした全体史を志向すること。第三に、奇を衒った方法論を導入するのではなく、語彙の精査や事件の検証といった着実な実証研究を積み重ねること、などを方針とする。

研究史の整理とそこにおける本書の位置付けについては、第一章と第二章第一節で詳述する。そして第二乃至第六章では、末代観が拡大深化していった一条朝（寛和二年〔986〕）から、民衆仏教の首唱者にして特異な歴史思想家と目されてきた法然・房源空が生涯を閉じた土御門朝（承元四年〔1210〕）までを、大凡の検討対象とする。

目次

緒言

凡例

第一章 民衆仏教史観の研究史

問題の所在

第一節 平民主義と仏教史叙述

第一項 民心人心と平民主義、新仏教運動

第二項 貴族仏教の登場

第三項 平民仏教の不在

第二節 村上專精の仏教史叙述

第一項 鎌倉新仏教中心史観

第二項 仏教統一論とその挫折

第三項 鎌倉平民仏教中心史観

第三節 民衆仏教史観の闊歩と雌伏

第一項 仏教史研究から思想史研究へ

第二項 平民から民衆へ

第三項 民衆仏教と非常の時局

第四節 古代対中世の闘争	25
第一項 石母田正と家永三郎	
第二項 井上光貞	
第三項 田村円澄	
第五節 正統対異端の闘争	31
第一項 黒田俊雄の顕密体制論	
第二項 顕密体制論への批判とそれ以後	
結 語	36
第二章 末代観と末法思想	42
問題の所在	42
第一節 議論の前提	43
第一項 日本末法思想の研究史	
第二項 研究史における諸問題	
第二節 諸史料における末代観と末法思想	49
第一項 漢家	
第二項 撰関期	
第三項 院政期	
第四項 末代観と末法思想の相違	
第三節 末代観の性格	62
第一項 劃期として的一条朝	
第二項 災異と理運、運命論	
第四節 藤原行成	65
第一項 災異思想	
第二項 運命論	
第五節 後朱雀帝と小野宮実資、藤原資房	69
第一項 後朱雀帝	
第二項 小野宮実資	
第三項 藤原資房	
第六節 大江匡房	76
第一項 運命論	
第二項 災異思想	
第三項 時代観	
第七節 中御門宗忠	82
第八節 歴史思想の要因	86
第一項 時代感覚	
第二項 事例主義と漢籍、仏典	
第三項 時世の必衰不可逆	
第四項 思想課題と現実問題	
結 語	95
第三章 九条兼実の反淳素思想	105
問題の所在	105
第一節 思想形成の過程	107
第一項 略歴と「反淳素」前史	
第二項 安元の大火と治承三年の政変	

第三項 治承四年の立志と『貞観政要』

第二節 徳政と祈禱

第一項 仏法王法の滅尽と相依

第二項 先民政治と仏事儉約

第三項 東大寺の大仏再造と願文奉納

第三節 徳政と内心

第一項 徳政と所領問題

第二項 徳政の起請

第三項 言路不通と病悩

第四節 文治の意見封事

第一項 撰政就任と意見封事

第二項 御教書の意義と意見封事の効果

第三項 その他の治績と信念

結語

第四章 法然房源空の思想

問題の所在

第一節 不孝意識と凡夫意識

第一項 発心の事由と父との死別

第二項 三学非器の凡夫意識

第三項 決定往生の希求

第二節 自行志向と民衆仏教者なる虚像

第一項 時機論と富貴貧賤

第二項 自行と化他

第三項 信空法系の源空像

第三節 晩年の時機論と二門二行判

第一項 時機論と止住百歳

第二項 聖道浄土の二門判とその難易勝劣

第三項 念仏諸行の二行判とその勝劣

第四項 念仏諸行の二行判とその専雑

第四節 決定往生と三心四修

第一項 往生の決定不定

第二項 三心と決定往生

第三項 四修と一念多念

第四項 三心と四修

結語

第五章 随分持戒と造悪無慚

問題の所在

第一節 法然房源空の随分持戒

第一項 時代思潮と源空

第二項 源空の持戒意識

第三項 持戒と魔悪修善

第四項 源空と『末法燈明記』

第二節 一念義の造悪無慚

第一項 安樂房遠西との問答

初出一覧
後記
索引

要旨
展望と提言

結

論

311

結語

299

第三項 造悪無慚の意義

第二項 末法証法論と末法滅論

第一項 「遣三北陸道書状」

第五節 弟子たちの背師自立

290

第四項 源空の配流と後鳥羽院の専修念仏政策

第三項 遵西住蓮の斬首

第二項 三つの不審

第一項 六時礼讃と夜宿事件

第四節 建永二年の朝譴

279

第四項 訴訟の内情と位置付け

第三項 二つの不審

第二項 訴訟の主体と目的

第一項 本解状と重申状

第三節 興福寺による訴訟の位置付け

264

第三項 罪名勘申と沙汰止み

第二項 配流の請求

第一項 三条長兼の忌避

第二節 朝廷と五師三綱の交渉

257

第四項 甲状第六乃至第八条

第三項 甲状第三乃至第五条

第二項 甲状第一、第九、第十二条

第一節 「興福寺奏状」

242

問題の所在

241

第六章 興福寺の訴訟と専修念仏者への朝譴

241

結語

237

第五項 時期不明の遺文

第四項 「登山状」

第三項 九条兼実「真性宛消息」

第二項 「七箇条制誠」

第一項 「送三山門」起請文」

第三節 叡山衆徒の鬱陶

223

第四項 「七箇条瓢録」

第三項 九条兼実との往復書翰

第二項 平基親との往復書翰

私は早稲田大学での学部時代、今は亡き第一文学部の、今は亡き人文専修に在籍し、異文化コミュニケーション論を専攻していた。しかし日本文化と異文化の比較を繰り返しているうちに、自分はどうやら日本のことについて知りたいので、それだったら日本研究に特化した方がよいだろうと考えるようになった。

学部では東洋思想の授業なども履修していたが、日本思想については無知に近かった。当初は「摂関院政期」という時代区分も知らなかった。ただ、この平安から鎌倉までは日本独自の思想が発達した、日本の思想史における極めて重要な転換期だという評価は耳に入っていた。そこで、この時期の日本思想史がどのようなものだったかを知りたくなった。

中世思想史研究の大家の著書を手に取り、後記を開くと、自分は学生時代に親鸞の思想に心惹かれて、というようなことがよく記されている。しかし私は、どうにも親鸞が好きでなかった。当時の直感がこれまで当たっていたかは分からないが、とにかく日本思想と言えば鎌倉仏教、それも親鸞、というような風潮に嫌らぬものがあった。そのため大学院では摂関院政期の、何でもかんでも仏教という思想の対極に位置すると思われた、神仏隔離を研究することにした。

母校にも日本思想史を研究できる環境はあったが、思う所あって大学院は東北大学の日本思想史研究室に進学し、佐藤弘夫先生に就いて学んだ。国書刊行会本の九条兼実『玉葉』全三巻を手に取り、変体漢文と格闘した博士課程前期一年目の夏を、今でもよく覚えている。無味乾燥な膨大な記事の中に、兼実の肉

声を見付けられると嬉しくなった。二年目からは神仏隔離の一例としてでなく、兼実の思想そのものを掘り下げ、平成十九年十二月に「九条兼実の思想」との題目で修士論文を提出した。

博士課程後期に進学してからは、研究対象を摂関院政期の他の貴族や、法然房源空など仏僧にも拡大した。当初、私は源空によい印象を持っていなかった。下民を煽動しながら貴顕に取り入った、言行の支離滅裂な人物という像を先行研究によって思い描いていた。九条兼実が帰依したという話も何かの間違いだろうと考え、修士論文では全く論じていなかった。しかし、二年目の夏に全集を手に取り向き合ううちに、私の源空への印象が変わっていった。従来の研究で、源空の思想は大きく誤解されてきたように思われた。三年目には、日本学術振興会の特別研究員に採用された。私は当時、摂関院政期の思想史を研究するには漢家の思想史にも理解がなければならない、と考えつつあった。そして、もしこの年度で博士課程後期を修了できたら、特別研究員としての任期が一年余ることになる。これは見聞を広める好機だと考え、修了後の任期二年目は東北大学の佐藤先生に暇を乞い、母校早稲田大学の東洋哲学専修に遊び、土田健次郎先生の門下で学ぶことにした。

平成廿三年一月に、本書と問題の博士論文『摂関院政期思想史研究』を東北大学に提出した。そして早稲田大学への移籍手続きが完了する直前、東北であの大震災が発生した。すでに仙台を引き払い藤沢の実家にいた私は、テレビやネットで情報を集めながら、恩師や先輩、同期、後輩、その他友人たちの無事を祈るしかなかった。幸いにして私の知人は全員無事であったが、中には実家が被災したり親類友人を亡くしたりした人もいたらしい。

あれからすでに二年近くを経て、今日に至る。

* *

本書は、私の以上七年間の研究成果である。力及ばず他日を期した問題も少なくないが、私の構想する撰関院政期思想史研究の大略は示し得たように思う。

本書は既刊論文をただ集成するのでなく、それらを解体して全六章に再構成してある。一本の初出論文にあった記述が、複数の章に分散していたりもする。それは、論文では思想史における特定の問題を議論すべきだが、著書ではあくまで思想史を叙述すべきだという持論による。従って、新たに書き下ろした箇所も多い。

また私は、論文とはなるべく学界に問題提起し議論を誘発すべきもの、著書とは百年不朽の業を建てるべきもの、という持論も有している。余りに同時代を意識すると著書としての寿命を保ち難くなると考え、初出論文「法然房源空の二門判と二行判」と「興福寺奏状」複合説」にあった学説整理と問題提起を、本書では削除するなどした。

なお、拙稿「九条兼実の反淳素思想」で兼実の歴史思想を『水鏡』のそれと比較した箇所も、本書には収録しなかった。『水鏡』の歴史思想は、私にとって今後の研究課題の一つである慈円のそれと比較した方がよいのではないかと考えを改めたためである。

その他、史料の選択や解釈、論述の表現などに修正推敲を施したが、論旨の変更はない。

* * *

本書では、先行研究を時に煩わしいほどに引用した。私の研究のどこが新奇で、どこがそうでないかを鮮明にしたからである。

これまでの研究史を振り返ると、通説に一石を投じるような重要な論文が、殆んど波紋を広げることもなく黙殺されてしまった例が余りに多い。私のような浅学が言うのは憚られるが、義憤に堪えない。本書

ではそのような忘れ去られた、しかし重要な先行研究を出来るだけ引用し、研究史に位置付けようと努めた。

民衆仏教史観にせよ末代末法の混同にせよ、広く行われている学説が根拠のない作業仮説だと周知されていれば、さほど弊害はない。しかし未だ実証されていないということが忘れ去られ、恰も数十年前に先学が実証したかのように錯覚されたならば、その弊害は甚大となるだろう。

第二乃至第四章の本論後註では、貴族や仏僧がどのような漢籍を典拠とし、それをどのように解釈して思想表現したかについて、幾つか註記した。当時は古典の本文を極めて重んじる事例主義の時代であったため、出典探しの積み重ねはこの時期の思想史研究にとって必要な作業だと思われる。このような典拠分析では、思想史学よりも漢文学に研究蓄積があるが、本書では十分に活用できなかった。今後の課題としたい。

* * *

七年前、思想史学の東西も弁えていなかった私を迎え入れ、常に温かく見守ってくださった佐藤先生の机下に本書を呈し、恩徳の万一に報いたい。ただし本書では、先生のご恩師でなく一人の先学として研究を参照した。博士論文の執筆中、出藍は教師の誉れだとの言葉を頂戴し、筆を曲げるようなことがあっては失礼だと考えたためである。もっとも、私は出藍を遂げたなどと思っておらず、先生もまた卑説にご不満のあることと思う。伏して玉斧を乞うばかりである。

その他、お世話になった諸先生や諸先輩、同期、後輩、友人たち、そして私の研究生生活を支えてくれた家族など、数多くの人々に謝辞を述べなければならない。ただしそれは紙幅の許す所でないため、以下、本書の刊行で直接お世話になった各位に限ってお礼申し上げます。

配流(流刑、流罪) 147, 165~6, 241, 258,
270, 272, 276, 279, 282~4, 286, 289,
291, 300, 305~8, 317

破戒 58, 160, 197, 201~4, 206~12, 216
~7, 227, 236~7, 255~7, 265, 272, 288,
295, 302, 315~6

『白氏文集』 99

八宗 230, 239, 244, 267~8, 276~7, 299

葉室光雅 129~30

葉室行隆 119

反淳素 62~3, 80~2, 92~3, 104, 107,
109~11, 113~6, 121~4, 127~8, 131
~6, 139~43, 313~4, 318 → 淳素

ひ

比叡山 → 延暦寺

日野光経 111

百即百生 180, 182

『百練抄』 285

ふ

「封事三箇条」 62

福善禍淫 120, 132, 141, 146

不孝意識 150, 152~4, 167, 191, 195

武士(武家、武者)
10~1, 27, 29, 59, 86~7, 108, 112, 159

不思議 85, 97, 311

藤原惟成 92

藤原経宗 118, 137

藤原行成 64~9, 80, 84, 96, 312

藤原師通 144

藤原資房
55~6, 61, 69~70, 72~6, 96, 128, 312

藤原親経 60, 134~5, 137, 146

藤原定家 283, 303

藤原道長 54~5, 63, 65, 67~9, 96, 102

藤原頼通 47, 67, 74

『扶桑略記』 56, 101

伏羲 50, 52, 60, 80, 101

仏教改革運動(仏教革新運動)
32, 161, 314

仏教史 4, 7~15, 17~21, 23~4, 26~8,
30~1, 33, 36, 42, 45~6, 311

仏事 73, 115, 120, 124, 127, 141

仏僧 37, 42, 44, 59~60, 83, 105, 203,
268, 282, 285, 296, 300, 311, 314

仏法 7, 32, 47, 53, 55~61, 78, 83~5, 90,
96, 99~100, 105~6, 116~8, 120~3,
129, 227, 230, 232, 235~6, 245~6, 255,
260~3, 266, 270, 273, 287~8, 291, 295,
299~300, 308, 312, 314, 316

へ

『平家物語』 85

平民主義
5~6, 10~1, 13, 16, 22, 24~5, 36, 311

「別伝記」 149~51, 193~4

「弁運命論」 76~81

偏執 230~3, 239, 257~8, 260~2, 264~
5, 267~8, 290, 317

弁長(聖光房) 150, 153, 157~8, 194,
205, 208, 213, 296, 306

ほ

『保元物語』 85

『方丈記』 60, 85, 101

『法水分流記』 305~6

謗法 223~4, 229, 231, 250~1, 265~6,
272, 289, 292, 297

法滅(一尽、仏法滅縁、仏法滅尽、仏法滅
亡) 83~4, 168~70, 224~5, 246, 255,
261~2, 317 → 末法法滅論

「没後起請文」 166

発心 149~50, 152, 195

『法書至要抄』 286

本解状
261~2, 265, 269, 273~4, 276, 278

『本朝世紀』 64

『本朝統文粹』 76, 80

『本朝文粹』 62, 64, 67~8, 96, 110

凡夫 51, 75, 153~4, 156~7, 159~60,
162, 170, 176, 183, 185, 189~93, 207~
9, 212~3, 216, 219, 222, 234, 236, 253,
292, 313~5, 319

凡夫意識
148~9, 152~5, 157, 160, 167, 191

ま

末代(末世、末の世) 43~4, 48~9, 51~
2, 54~5, 57~60, 62~3, 67~76, 80, 82
~3, 85~7, 89~92, 95~7, 100, 102,
105, 109~10, 113, 127, 131, 136, 140,
142, 159, 168, 172, 176~7, 191~2, 197,
203, 211, 230, 234, 249~52, 254~5,
295~6, 311~4, 318~20

末代観 42~3, 49, 52, 58~62, 65, 68~
71, 74~6, 81~4, 86, 89~90, 93, 95~7,
100, 104, 106~7, 140, 170, 311~4, 319

松殿基房 111~2, 303

末法 43~9, 53~61, 83~4, 87~8, 90,
95, 97~100, 105, 119~20, 168~72,
196~7, 207, 209~12, 237, 293~6, 311
~2, 314

末法思想 28, 42~3, 45~9, 52, 54~9, 61
~2, 66, 86, 95, 97, 100, 105~6, 170,
210, 296, 311, 314, 319

末法証法論 293, 296

『末法燈明記』(『末燈記』)
44~5, 58, 171, 210~2, 237, 315

末法法滅論 293, 296, 300

み

弥陀 153, 156, 160, 163, 169, 172~4, 178
~83, 185, 187~8, 190~2, 197~9, 202,
205~6, 208~9, 212~4, 216, 219~22,
225~8, 233, 235~6, 238, 246~7, 249
~50, 254, 288, 293~4, 298, 315~6,
318

源為憲 53~4, 59, 61, 78

源義仲 108~109

源経頼 104

源頼朝 11, 87, 108~9, 134, 138

『明義進集』 162, 164~5

『妙行心要集』 99

三善清行 62

民衆(平民、庶民) 3~11, 13, 19, 22~4,
27~9, 32~7, 45, 154, 159, 167, 242,
296, 311, 314, 317, 320

民衆思想 3, 6, 311

民衆仏教(平民仏教) 3~4, 7~8, 13, 20,
26, 28~9, 31, 33, 36~7, 147~8, 157,
159, 164, 193, 195, 300, 311, 314

民衆仏教史観(平民仏教史観) 3~4, 10,
20, 24, 36~7, 42, 95, 147, 241, 311, 319

民心 → 人心

む

無戒 34, 58, 160, 206~7, 211, 255, 315

謀叛 87, 118~9, 281

村上専精 11~7, 19

『無量寿経釈』 58, 158~9, 196, 207, 295

め

『明月記』 283, 288, 303

『明文抄』 61

も

勿論解釈 169, 197, 207

『文選』 64~5, 77, 79, 81~2, 97, 100,
103, 312, 319

や

夜宿(一事件)
241, 281~2, 284, 286, 300, 305, 317

よ

「要義問答」 155, 197

吉田経房 87, 89, 121, 126~7, 145~6

吉田兼好 279

ら

『礼記』 194

り

理運 63~6, 96, 101~2, 117

「略選振」 155, 157, 172

梁(一代) 65, 109, 145

「靈山院式」 54

良忠(然阿) 152, 158, 235

『琳阿本』 240

真性 223, 228, 241, 316
 「真性宛消息」 228, 256, 292, 297
 信心 70, 71, 76, 178, 190, 191, 214, 216,
 218, 219, 236, 263
 人心(人情、民心) 4~5, 8~9, 17~8, 36,
 45, 50~1, 58, 60~2, 83, 88, 91~3, 109,
 311~2
 信瑞(敬西房) 162, 164
 新仏教 3, 6~7, 10~5, 17, 28, 32~4, 39,
 45, 314
 新仏教運動(一家、新仏教徒)
 7, 10~1, 14~5, 18
 親鸞 9~10, 16~7, 19~20, 23~4, 27~
 8, 32, 45~6, 241, 281, 284~7, 305~8

す

隋(一代) 51, 94
 隋唐 51~2, 90, 170, 320 → 唐
 随分持戒
 201, 203, 207, 212, 237, 256, 303, 315
 末本文美士 32~4, 37, 40, 160, 167, 169,
 173, 180, 193, 196, 226, 228, 248
 菅原文時 62, 104

せ

聖人 78, 94, 111, 120
 聖代 62~3, 67~9, 72, 75~6, 80, 82, 92,
 97, 106~7, 114~5, 126~8, 132, 134~
 8, 140, 312, 314
 聖代観 42, 62, 69, 96, 107
 世運 65, 71~4, 91, 102, 111
 漸澆史観
 50, 52, 64~5, 88~91, 95~7, 170, 319
 「撰時抄」 286
 専修念仏(専修、但念仏) 29, 32~3, 39,
 143, 147, 157, 159, 161~3, 165, 167,
 177~82, 191~2, 196, 201, 206, 213,
 219, 223, 225~6, 230, 240~5, 247, 249
 ~50, 254~7, 260, 262~4, 266~7, 270,
 272~4, 277, 279, 284, 287~90, 292~3,
 295, 297~300, 302~3, 308, 315~8
 専修念仏者 30, 241, 246~9, 252~5,
 258, 272, 278, 283, 287~9, 293~5, 298

~300, 308, 317
 『選択本願念仏集』(『選択集』) 34, 148,
 155, 157, 159~61, 167, 169~73, 175~
 6, 180, 182~3, 185, 187~8, 192~3,
 196, 199, 201, 204~5, 213, 219, 226~7,
 247~8, 314
 善導 58, 155~7, 161, 163, 167~8, 180~
 1, 183~4, 186~8, 190~1, 199, 215~6,
 219, 222, 226~7, 230, 233, 248, 254,
 279, 281
 先民 120, 141
 先例 106~7, 134, 136~8, 141~2, 271, 278

そ

宋(一代) 138, 145, 195
 造悪無慚(無慚、造悪無碍) 202~3, 213,
 215, 219, 223, 226~7, 235~8, 256, 290
 ~1, 296~300, 315~9
 相依論 47, 105~6, 115~8, 301
 「送山門起請文」 161, 223, 225, 231~3,
 237, 239~40, 253, 268, 288, 290, 316
 『莊子』 50, 97, 101, 312, 319
 奏事不実 260, 266~8, 286
 蒼天(蒼々) 56, 66, 68, 79, 99
 像法 53~5, 58, 61, 66~7, 90, 97~8,
 211, 295, 312
 『続本朝往生伝』 80, 82, 92, 156

た

『大広益会玉篇』 145
 『醍醐本』 149, 176, 187, 209, 211, 234, 290
 太神宮 69~70, 83, 96, 119~21, 127~8,
 130, 312
 太宗帝 66, 93~5, 114, 136, 143
 『大日本国法華驗記』 285
 平基親 215~7, 219, 221, 237, 316
 平経高 144
 平清盛 108, 111~2
 平雅行 32, 34~5, 37, 40, 47~8, 106,
 156, 173, 178, 181, 190, 197~8, 226,
 239, 242, 256, 277, 282, 289~90, 296,
 306~8

他宗 202, 228, 230~1, 293 → 諸宗
 『大戴礼記』 194
 田村円澄 27, 29~31, 36, 39, 148, 163,
 243, 247~8, 276, 295
 他力 198, 220~1
 『歎異抄』 305~6

ち

「知恩講私記」 196
 智顗 51
 『注好選』 101
 中国(中夏) 108~9, 125, 211
 『中右記』 57, 83, 85, 156

つ

『徒然草』 279

て

『徹選択本願念仏集』 150, 153, 205, 208
 天(上一、一道) 68, 72, 78~9, 84~5, 91,
 96~7, 99, 102~3, 111~2, 116, 119~
 21, 126, 129~32, 134, 137, 141, 146,
 312, 318
 天台宗(天台) 7~10, 12, 28, 44, 53, 58,
 107, 147, 158, 223, 316
 天皇 43, 56, 66~7, 93, 245, 256
 天魔 117, 217, 221, 244, 267~8, 287
 『篆隸万象名義』 145

と

唐(一代) 60, 66, 92~5, 102, 114, 155,
 167, 177, 195, 229, 251
 統一仏教 14~8, 36
 湯王 49, 66, 69, 79~80, 94, 146
 道綽 51~2, 99, 156, 159, 170~2, 181,
 191, 196~7, 295
 闘諍堅固 87~8, 90, 97, 231
 東大寺 116, 119~24
 『東要集』(『浄土宗要集』) 152, 235
 道理 58, 72, 75~6, 82, 91, 101, 125, 208,
 247, 318~9
 徳政(徳化) 68, 71~2, 74, 76, 91, 105~
 6, 110, 115, 119~21, 123~8, 130, 132

~3, 137~8, 140~1, 144~5, 312~4,
 318~9

徳大寺実定 88

「登山状」 155, 208, 232, 234, 240, 295

な

内心 123, 128, 150, 179, 183, 189, 234,
 236~8, 255, 318, 320
 中御門宗忠 57, 82~5, 97, 105, 156, 312
 中山忠親 285
 難易義 160, 173~5, 205
 難行 8~9, 174
 南都焼き討ち 116~8, 121, 313

に

二行判 148, 173, 192, 314
 肉食(魚食、魚味) 255, 296, 300, 302
 日蓮 9~10, 12, 19, 46, 279, 282, 284,
 286, 288, 305, 307
 『日本紀略』 285
 『日本三代実録』 64
 二門判 148, 159, 173, 192, 198, 314
 如法(如説) 88, 119~20, 177, 189, 205~
 7, 232~3, 255, 315
 如法持戒 256
 女犯 215, 255, 296, 300

ね

念仏 34, 58, 148, 155~7, 159~61, 163~
 4, 166~70, 173~85, 187~92, 197~8,
 201, 204~11, 213~26, 228~9, 231~2,
 234~5, 244, 246~7, 253~4, 256~7,
 259, 261~4, 267, 279~80, 291, 293~4,
 297~8, 314~8 → 専修念仏
 「念仏往生要義抄」 187
 「念仏者令追放宣旨御教書集列五篇勘文
 状」 288
 「念仏大意」 181, 295
 『念仏名義集』 296
 「念仏無間地獄鈔」 279, 284, 305, 307~8

は

廢惡修善 206, 209, 235~7

五帝 49, 58, 60, 69, 81, 89, 94, 97, 101, 115, 136, 143, 312
『古徳伝』 240
後鳥羽院(後鳥羽帝) 128~9, 138~9, 241, 261, 264, 278~9, 281~9, 299~300, 303, 317
『後二条師通記』 144
近衛基通 109, 111
『近衛本』 287, 289
「狐媚記」 80
『権記』 64~6, 68
『今昔物語集』 57, 100, 285

さ

西意(善綽房) 305
災異 63, 66, 68~9, 71~4, 76, 78~82, 88, 96, 102, 108, 119, 126~7, 132, 136, 138, 141, 146, 312~3
災異思想 65~6, 96, 319
罪科(刑罰、処罰) 111~2, 241, 244, 257~8, 260~2, 264~9, 274, 276~8, 281, 283~6, 288~9, 299~300, 316~7
『西指』(『西方指南抄』) 155, 162, 178, 185, 235, 295
『摧邪輪』(『於一向専修宗選撰集中摧邪輪』) 170, 195, 247
最澄 7, 9, 11, 44~5, 158, 210~1, 251~2, 315
『西方要決』 186, 226, 294
佐藤弘夫 32~5, 37, 106, 181, 196, 293, 295~6, 298, 309
『山槐記』 285
三学 153~5, 197
三学非器 153~5, 157, 160, 191~2, 205, 314
慚愧 203, 214, 219, 237, 255, 297, 302, 316, 318
三皇 58, 60, 81, 101, 143
斬首 147, 214, 241, 279~80, 282~5, 300, 305, 307~8, 317
斬首配流 242, 277, 279, 281, 287, 289~90, 299 → 配流
三条長兼 139~40, 257~67, 271, 273~

4, 276~8, 297, 302~3, 317
三心 183~5, 188, 199, 220~1
三心四修 148, 189~92, 254, 315 → 四修
「三心料簡事」 176~8, 234
『三長記』 139, 257~8, 262~7, 271~4, 278, 297, 301, 317
三王 58, 69, 81~2, 89, 94, 115, 143
三部経釈 148, 158, 191, 193
『三宝絵』 53~5, 59, 61, 78
『三略』 144

し

慈円 58, 59, 61, 63, 90, 100, 107, 118, 133, 139, 279~80, 284, 286, 305, 319
持戒(戒、戒行、戒律) 58, 148, 153~4, 160, 197, 201, 203~9, 211~2, 227, 236~7, 254~6, 297, 302, 315
持戒観(持戒意識) 201, 203, 210, 237~8, 256, 315, 319
『四卷伝』 279, 287~8, 308
『史記』 101, 145
時機 51, 162~3, 168, 173, 197~8, 233, 314 → 時機論
『詩経』 59, 194
自行 161~2, 249~50, 279
自行志向 157, 159~60, 167
時機論 52, 157~60, 163, 167~70, 191 → 時機
死罪 282, 284, 287, 305~6
四修 183, 185~8, 219 → 三心四修
『四十八巻伝』 150, 213, 215, 232, 239~40, 257, 261, 265, 279, 307~8
止住百歳 168, 170, 173, 207
治承三年の政変 108, 111, 113~4, 133
思想史 3~4, 20~1, 23~4, 26, 31~2, 35~7, 42, 46, 48~9, 51, 193, 201, 238, 250, 311, 313, 318~20
「七箇条甄録」 184, 220, 223, 226, 237, 239, 249, 280, 292, 316
「七箇条制誠」 220, 225~6, 228, 231~2, 237, 239~40, 248, 268, 280, 290~1, 297~8, 316
『十巻伝』 164~6, 228, 240

『十訓抄』 100, 302
「下山御消息」 282
釈迦(釈尊) 6, 50~1, 53~8, 61, 67, 87, 90, 98, 168~9, 171~2, 175, 182, 192, 199, 204, 232~3, 248~9, 294, 312
『釈浄土群疑論』 177
社稷 113, 123, 131, 134, 139
『沙石集』 203, 229, 247
周(一代) 50, 53, 61, 80, 89, 93~4, 98
二由一証 159, 172
『拾遺漢燈』(『拾遺黒谷上人語燈録』) 217
「十一箇条問答」 187, 189, 196, 211
『拾遺和燈』(『拾遺黒谷上人語燈録』) 155, 208, 232, 295
宗教改革(宗教革命) 6, 148, 194
「十三箇条子細事」 134
重申状 261, 265, 269, 274
「十二箇条の問答」 234, 299
住蓮 214, 260, 262, 266~7, 270, 272, 276, 279~82 → 遵西住蓮
舜(帝一) 89 → 堯舜
『春記』 55~6, 61, 69~70, 76
遵西(安樂房) 213~4, 258, 260~2, 264, 266~7, 269~70, 272, 276, 279~82, 299, 317
遵西住蓮 283~6, 289, 291, 300, 305, 308, 317 → 住蓮
荀子(『荀子』) 49~50
淳素(淳厚、純樸) 80, 81, 89, 91~3, 96, 107, 109~11, 113~6, 121, 123, 128, 135~6, 140, 313~4 → 反淳素
貞応の延暦寺奏状(「請被殊蒙 天裁停止 一向専修濫行子細状」) 143, 294~5, 298~9
聖覚(安居院) 232, 240
『貞観政要』 67, 92, 94~5, 104, 114~5, 135~6, 145, 319
性願房 305
勝行 148, 174~5, 192, 198, 253~4
貞慶(解脫房) 32, 241~2, 245, 248~9, 251~7, 264, 270~2, 274, 277, 296, 298~9, 301~2, 316~7
精進 183, 185, 188, 189, 190, 191, 206,

208, 236, 302, 319
正像末 90, 97~8, 168, 169, 170, 294
聖道門 29, 51, 147, 155, 159, 163, 168, 170~3, 188, 191~2, 197~9, 226, 295, 314
聖道門証悟 171~3, 192~3, 198
浄土教 17, 20, 23~5, 27~30, 39, 51, 54, 147, 161, 168, 191, 195, 198, 211, 227, 231, 245~6, 253, 280, 291, 314, 319
浄土宗 23, 45, 108, 147, 152, 156, 158, 167, 173, 220, 230~1, 234, 276
浄土門 147, 155, 157, 159, 167~9, 171~3, 175, 179, 188, 191~2, 229, 247, 314
勝法 171~2, 192, 314
『小右記』 64, 101
勝劣義 173~5, 205, 315
『初学記』 101
『書経』 59, 146
諸教(余教) 153~4, 169, 220, 223~5, 230~2, 260, 262, 266~7, 291, 294~5, 297~8, 314, 319
諸経(余経) 168~9, 229, 294
諸行(余行) 153~5, 161, 168~9, 173~82, 192, 198~9, 201, 204~6, 223, 226, 229~31, 247~8, 253~4, 263, 291, 293, 314~5, 319
諸行往生 168~9, 181, 192~3, 253~4
諸宗 12, 28, 143, 156, 158, 173, 192, 199, 218~9, 223, 229~32, 246, 255, 263, 267, 273, 277~8, 293, 297, 317 → 他宗
諸伝 149~50, 165, 193~4
諸仏(余仏) 208~9, 220, 222~3, 225, 229, 233, 248~9, 262, 298
白河院 85, 282
自力 216, 221
事例主義 48, 88, 90~1, 97
神鏡 69, 71~5, 88, 96, 102, 109, 111, 128~30, 312, 318 → 劍璽
信空(法蓮房) 162~6, 192
『新古今和歌集』 60
神事 64, 71, 73, 115, 120, 122, 124, 127, 141
真宗 11, 116~8, 20, 44~6, 284

雅緑 278, 304~5
 華族 5, 22, 28, 31, 36, 38, 311
 「鎌倉二位禅尼宛消息」 178
 漢(一代) 66, 79, 93, 101, 114
 漢家(漢土) 49, 51~2, 57~61, 65, 69,
 77, 80, 90, 93~4, 101~2, 115, 161, 170,
 195, 230, 250, 319~20
 漢学 37, 48, 59~60 → 漢籍
 『観経玄義分聴聞抄』 306
 『漢書』 144
 漢籍 64~5, 88~92, 97, 101, 115, 313
 → 漢学
 観想念仏 176~7, 182, 254
 『漢燈』(『黒谷上人語燈録』)
 161, 166, 206, 215~6, 223, 291
 『観無量寿経釈』 247
 『観無量寿経疏』(『観経疏』) 155, 161,
 163, 183~4, 191, 216, 248, 320
 寛宥の宣旨 241, 258, 265, 269~70, 272,
 274, 276, 278, 283, 299, 317
 き
 機縁 158, 168~70
 窺基 186, 294
 機根 51, 61, 90, 148, 158, 163, 169~70,
 172, 189, 191, 206, 209~10, 224, 233~
 4, 295, 314, 319
 起請 113~4, 116, 121~2, 124, 127~8,
 144, 231~2, 239, 253, 266~7, 313~4
 疑心 185, 218, 236
 祈請 → 祈禱
 貴族(公家) 3~11, 13, 22, 24~9, 36~7,
 42~5, 47, 53~4, 59~60, 62, 65~6, 75
 ~6, 78, 81, 83, 86, 93, 96~7, 101, 105
 ~9, 115, 118, 138~40, 145, 278, 282,
 296, 300, 311, 313, 317
 貴族院 5, 7, 31, 36, 311
 貴族思想 3~4, 6, 26, 36, 76
 貴族主義 8, 16, 31, 36
 貴族仏教 4, 7~8, 31
 魏徴 92~5, 114~5, 143
 『吉記』 87, 89, 146
 祈禱(祈請) 70~1, 73, 76, 81, 83, 115,

119~20, 123, 129~30, 132~3, 137,
 141, 144, 311~2, 318
 『逆修説法』 148, 151, 156, 158, 210, 247~8
 旧仏教 6~7, 10, 12, 14, 30, 33~4, 39,
 45, 198, 298
 堯(帝一) 66, 69, 79~80 → 堯舜、堯水湯旱
 澆季(澆薄、澆訛) 44, 48, 52, 62, 66~7,
 70~1, 76, 81, 89, 91~3, 95, 99, 113~5,
 135~6, 140, 231, 294, 314
 教行証 58, 61, 295
 『教行信証』(『顕浄土真実教行証文類』)
 281, 284~5, 305~7
 行空(法本房) 258, 260~3, 264, 266~7,
 269~70, 272, 276, 279, 284, 291, 299,
 317
 堯舜 50, 68, 72, 76, 79, 82, 135~6, 312
 → 堯、舜
 堯水湯旱 66, 69, 80, 96~7, 102, 136
 経道滅尽 168, 170, 294~5
 「玉桂寺阿弥陀如来立像胎内文書」 305
 『玉葉』 87, 90, 109~10, 112~3, 115, 117
 ~8, 120, 124, 130~1, 133~4, 138, 144
 ~5, 204
 魚食 → 肉食
 清原頼業 114, 145
 記録所 125~6, 138
 <
 空阿弥陀仏(空阿) 162, 164, 167, 192, 293~4
 空海 7, 9, 11, 44, 145, 251~2
 『愚管抄』 58~9, 61, 63, 90, 100, 107,
 118, 133, 139, 279~80, 284, 286, 305~
 6
 『九卷伝』 164~5, 240, 287
 九条兼実 29, 87, 90, 93, 97, 105~3, 115
 ~8, 120~40, 142, 144~7, 201, 204,
 215, 217, 219, 223, 228~32, 237~8,
 256, 259, 263~4, 292, 297, 302~3, 313
 ~4, 316, 318~9
 九条道家 125, 303

九条良経 258~61, 270, 278, 302
 九条良通 112, 145
 「熊谷入道宛消息」 207
 黒田俊雄 31~6, 39~40, 106, 159, 296
 け
 京師 110, 146, 162, 165~6, 240
 京中無一 171, 181
 『芸文類聚』 101
 化他(化導) 161~7, 192, 224, 227
 懈怠 73, 189~2, 213, 223, 236, 291, 298
 ~9, 315, 318
 解脱 147, 150~1, 153~5, 157~8, 179,
 191~3, 195~6, 209, 232~3, 314~5
 決定往生 157, 163~5, 167, 176, 179~
 81, 183, 190~1, 193, 205, 218, 254, 314
 ~5, 318 → 往生
 『決答授手印疑問鈔』 158
 外道 217, 221, 236, 292
 檢非違使 68, 110, 282, 285~6, 300, 306, 308, 317
 源空(法然房) 3~4, 9, 17, 19, 23~4, 27
 ~30, 32~4, 36~7, 39, 46~7, 51, 58,
 91, 95, 108, 147~67, 169~70, 172~3,
 176~82, 184~6, 188~9, 191~8, 201
 ~2, 204~34, 236~45, 247~54, 256~
 63, 265~74, 276, 279~81, 283~4, 286
 ~300, 302~3, 305~6, 308, 311, 314~
 9
 「源空聖人私日記」(「私日記」)
 162~3, 196
 劍璽 109, 128~30 → 神鏡
 兼修 176~7, 201, 247, 253
 源信(慧心僧都) 27, 54, 58, 90, 99, 155, 185, 191, 231
 建保の延暦寺奏狀(「請被殊垂 天察禁刑
 仏法怨魔成覚空阿弥陀仏并其余党停止
 彼等所立宗子細狀」) 293, 297
 「遣北陸道書狀」 240, 291~3, 295, 317
 顕密 24, 119~20, 293~4
 顕密体制 31~7, 47, 159
 顕密仏教 33, 35, 40, 47, 159, 196, 232,
 239, 277, 295~6

こ

皇円(肥後阿闍梨) 56~8
 『孝経』 151
 幸西(成覚房) 260, 262, 266~7, 270, 272, 276, 293~4
 孔子 49~50, 79~81, 89, 94, 100, 103,
 109, 111, 145, 194~5
 甲狀 242~5, 250~2, 254, 256~7, 264~
 74, 276, 278, 298~9, 303
 嗽訴 84~85, 108, 117, 260, 270~1, 275, 278
 『皇代記』 284, 308
 『皇代暦』 287
 『江談抄』 92, 101, 110
 黄帝 50, 80, 94
 『皇帝紀抄』 305
 『江都督納言願文集』 80, 82
 興福寺 56, 116, 118~21, 241~3, 257~
 9, 261~5, 269~71, 274, 276~9, 284,
 286, 290, 292, 299~301, 307, 316~7
 「興福寺遺鎌倉狀」 274, 278
 「興福寺奏狀」 241~5, 252, 256~7, 264
 ~71, 276~7, 292, 298~9, 301, 317
 高弁(明慧房) 32, 170, 195, 247
 「光明房宛消息」 235, 298
 『後漢書』 102
 五逆 156, 175, 198, 218, 233, 250
 『玉篇』 145
 五堅固説 42, 87~8
 『古今著聞集』 82, 102
 後三条帝 67, 80, 92
 五師三綱(五師、三綱) 241, 258~67,
 269~79, 284, 286, 292, 299, 317
 『古事談』 67, 282
 五濁(惡世、濁世) 43, 45, 54, 59, 87, 90, 97, 117, 171
 後白河院 88, 108, 111, 119, 121, 124,
 128, 130~4, 137~8, 140, 145~6, 203,
 279, 313
 後朱雀朝 91
 後朱雀帝 69~74, 76, 91, 96, 111, 128, 312, 318

◎著者略歴◎

森 新之介 (もり・しんのすけ)

1983年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部人文専修卒業、東北大学大学院文学研究科日本思想史専攻分野博士課程後期修了。博士(文学)。現在、東北大学大学院専門研究員。専門は、九条兼実と法然房源空を中心とした摂関院政期思想史。

せつかんいんせい し そう し けんきゅう
摂関院政期思想史研究

2013(平成25)年1月30日発行

定価：本体6,500円(税別)

著 者 森新之介

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

印刷 株式会社 図書印刷
製 本 株式会社 同朋舎

©S. Mori

ISBN978-4-7842-1665-9 C3021

索 引

貴族の名は音読みによる。例、大江以言→(おおえのいげん)

仏僧の名は法諱による。例、慈眼房叡空→叡空(えいくう)

史料名は音読みによる。例、「送山門起請文」→(そうさんもんきしょうもん)

後註の書誌情報は対象外とした。

あ

『吾妻鏡』 126~7
『安楽集』 51~2, 159, 171~2, 191, 196~7, 295, 319

い

家永三郎 21, 25~8, 31, 36, 108
易行 8~9, 155, 160, 163, 174~5, 293
「意見十二箇条」 62
意見封事 117, 132~4, 137~8, 263, 314
石母田正 25~30
異端 32~3, 35, 282, 287, 317
「一期物語」 149, 156, 173, 176, 189, 209, 290
一条朝 43, 63~5, 68, 71, 76, 92, 96, 104~5, 312
一条帝 63, 65~9, 72, 96, 102, 104
一念義 202~3, 212, 215, 217, 219~23, 228, 234~8, 240, 258, 262~3, 272, 291, 300, 315~7
「一枚起請文」 189
井上光貞 27, 29~31, 34, 36, 39

う

禹(夏一) 49, 80, 89
運命 68, 76~82, 84, 96~7, 101, 312
運命論 64~5, 67, 77~82, 96~7, 103, 319

え

『栄花物語』 54~5, 64, 71, 102
叡空(慈眼房) 149, 151, 164
慧遠(廬山寺) 195
懷感 177

『易緯弁終備』 101
『淮南子』 79
延暦寺(比叡山、叡山) 53, 56~7, 83, 117, 143, 149, 151, 153, 158, 203, 223~4, 228~9, 231~2, 237, 239~41, 251, 267~9, 275~7, 293, 295, 301, 316~7

お

往生 54, 58, 147, 154~7, 159~60, 164, 168~9, 173, 175~6, 180~5, 187~92, 197, 199, 202, 204~14, 216~9, 221~2, 227~9, 231, 233, 247~8, 253, 255, 294, 299, 314~6, 318 → 決定往生、諸行往生
「往生大要鈔」 155, 197~8, 236, 299
『往生要集』 54, 90, 155, 185, 191, 206, 231
「往生要集料簡」 206
『往生礼讃』 168, 180~1, 183, 186~8, 216, 219, 279
王法 28, 32, 47, 57, 59~60, 73~4, 96, 99, 105~6, 116~8, 121~2, 129, 140, 245~6, 312
大江以言 63
大江匡衡 63, 67~8, 93, 96~7, 104, 110, 114, 143
大江匡房 60, 76~82, 85, 92, 97, 101, 110, 114, 136, 143, 156, 312~3
「大胡太郎実秀宛消息」 185
乙状 242~5, 264~9, 272~4, 292, 303
小野宮実資 64, 69~70, 72~4, 76, 80, 91, 96~7, 111, 128, 312, 318

か

戒定慧 58, 153~4, 197, 205
外相 179, 183, 185, 189, 237, 255, 318